

# 企業ニュース 東洋炭素

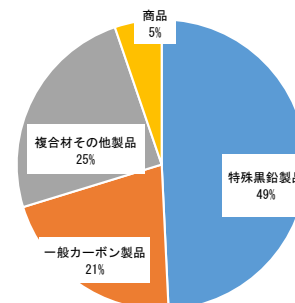
(東証1部: 5310) <http://www.toyotanso.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

## 高機能カーボン製品メーカー

◇18. 12期品目別売上高構成比

1941年に近藤カーボン工業所創設、カーボンブラシの製造を開始した。1947年、近藤カーボン工業設立、1949年に現社名に改称した。カーボンが持つ様々な可能性に着目、高機能分野に特化し独創的かつ革新的な製品を探求してきた。現在、環境、エネルギー、宇宙航空、医療など様々な領域で用いられる炭素製品を市場に供給している。代表的な製品のひとつが等方性黒鉛製品。黒鉛が持つ耐熱性、耐薬品性、熱伝導性などの特性に加え、等方的な構造により方向による制約を受けない。また、微粒子構造のため高強度、材料のばらつきが非常に小さいなどの特徴を持ち、半導体や太陽電池などの製造工程や原子炉の炉心材などに用いられる。原子炉用途では18. 12期に、中国の高温ガス炉（HTR-PM）向けに納品された。同高温ガス炉は次世代原子炉として注目されており、中期的な業績貢献も期待されている。



(出所) 東洋炭素資料よりCAM作成

## HTR-PM特需剥落も、高機能製品の需要は堅調

19. 12期・第2四半期（1-6月）の連結業績は売上高が191億4, 100万円、前年同期比13%減、営業利益が31億5, 800万円、同24%減。前期に計上されたHTR-PM向け売上（約32億円）を除けば増収を確保した。営業利益では会社計画を7億5, 800万円上振れた。為替が円安に推移したことや、人件費などの費用が想定を下回ったことがプラスサイドの貢献となった。一部製品における値上げも奏功した模様。

19. 12期の会社計画は売上高が370億円、前期比10%減、営業利益が58億円、同17%減。国際的な貿易環境に不透明感が生じており、下期の需要減少を見込み売上高を30億円下方修正した。一方、引き続きコスト抑制などに努め営業利益は8億円の上方修正（実質、下期の利益計画はほぼ据え置き）。しかし、足元の需要動向には大きな変化はなく、上期実績などを勘案すれば下期の営業利益にも上振れ期待があり、会社計画は保守的であろう。HTR-PMは注目度も高く、新興諸国での電力事情などを考慮すれば中期的な需要が期待できよう。

### [株価動向・投資判断]

黒鉛製品の用途・需要拡大に加え、高付加価値品シフトによる利益成長が継続している。高温ガス炉向け製品の業績けん引の期待も高く、中期的な成長が見込めよう。

<5310 東洋炭素 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17. 12	35, 240 ( 9)	3, 708 ( 469)	3, 719 ( 390)	3, 020 ( 963)	145. 5	30. 00
18. 12	41, 132 ( 17)	7, 009 ( 89)	7, 057 ( 90)	4, 910 ( 63)	234. 5	50. 00
19. 12 予	37, 000 ( ▲ 10)	5, 800 ( ▲ 17)	5, 800 ( ▲ 18)	4, 000 ( ▲ 19)	190. 7	50. 00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2019/8/26)	1, 872 円
年初来高値 (高値日)	2, 550 円 (19/2/14)
同 安値 (安値日)	1, 830 円 (19/8/6)
予想 P E R (19. 12 予)	9. 8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3, 059. 8 円
P B R	0. 61 倍
予想配当利回り	2. 67 %
(1株当たり配当金年50. 00円)	
R O E (18. 12)	8. 0 %
発行済み株式数	2, 099 万株